

とらうべ通信 2017.10月号 No.85

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町 1176
発行責任者：宮本 政子 ☎：087-844-4131 FAX：087-844-4130

会長挨拶

宮本 政子

厳しかった夏も過ぎ、秋の訪れを感じる今日この頃です。会員の皆様にはお元気で日夜母子の幸せを願いご活躍のことと、心より御礼申し上げます。

会長に就任し早いもので4か月以上経ちましたが、わからないことばかりです。とりあえず目の前の事を処理して、「今年は先輩諸姉の引いてくれたレールから脱線しない」ことを目標に日々過ごしております。

さて、7月号発行のあとも全国各地で水害が発生し、九州北部豪雨災害では多くの方が亡くなりました。ご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。人間の力は自然の脅威に比べると微々たるものであることを痛感し、次から次に発生する災害にどのように対峙するべきか本当に悩むところです。

香川県助産師会では昨年香川県と災害時の助産師の活動について協定を結んだことから、今年は日本助産師会の災害対策委員の方2名をお招きし、9月に研修会を開催しました。助産師会として整備すべき事項が多いことを確認しましたので、会員の皆様にもご協力をいただきながら災害への備えをしてゆきたいと思えます。

また、助産師会に関連する事業として今年度は香川県の委託事業として「イクケン香川」ライフデザイン推進事業を株式会社ファミリーエが受注し、県内4大学でライフデザインの出前講座を実施する事になり、その講座に助産師による妊娠・出産・妊孕力の講義も含まれることとなりました。次代を担う若者が結婚や妊娠・出産、子育てに関する正しい知識を持ち、活力にあふれる社会になればいいですね。

10月は中国四国地区研修会や、香川県助産師会では「母親のメンタルヘルス」研修会、他団体の多くの研修会がありますので、皆さまご自分のライフデザインを考えながら積極的に自己研鑽にお励み下さい。

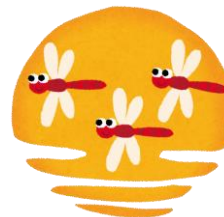


岡本前会長を囲み、ぼっこ助産院で食事会をしました。

研修会報告

「新生児・乳児の見方～気になる子どもと発達障害～」に参加して

報告) 吉岡 加奈子



6月30日に、むらかわクリニック院長 村川和義先生による「新生児・乳児の見方～気になる子どもと発達障害～」をテーマとした研修会が行われました。村川先生はNPO法人子育て・発達支援ネットワークはぐくみ副理事長もされておられます。

発達障害に関する知識だけでなく、日々の診療の中の感じていることや事例もたくさん紹介して下さいました。薬物療法や漢方治療、療育支援など、実際の診療の現場を知ることができました。

わが子に育てにくさを感じたり、子育てに不安を抱える親御さんはたくさんいます。個性なのか、障害なのか。早期発見のため1歳半健診では感覚過敏の観察も重要だそうです。障害と診断されることは親にとっては辛いこと。しかし早期発見により、子どもに合わせた環境整備を行い、得意を伸ばす養育サポートを継続して受けることがいかに重要か。そして発見が遅れることにより、障害の理解不足による虐待やそれに続く二次障害（引きこもりやうつ等）があることも学びました。

私は赤ちゃん訪問を行っていますが、今まで以上に母と赤ちゃんに寄り添えるよう研鑽を積み、保健師さんとの連携も大切にしていきたいと思えます。貴重な研修をありがとうございました。



「骨盤運動を通して・母子のケアに参加して」

報告) 池田 美江

8月6日猛暑日の中、田中助産師による研究会が開催されました。まずスライドを見ながら脊柱や骨盤の解剖生理を簡単に復習し、車の普及や家事・農作業の省力化が靭帯や筋肉の発達不良、脊柱の湾曲の弱さにつながっていること、それらが妊娠・出産に与える影響を学びました。

その後、2階の広場へ移動し骨盤ケアの実技が始まりました。各自、さらしを締めて骨盤を固定し上半身がしっかり上方向に伸びていることを確認したところで身体を動かしました。操体法や骨盤底筋の弾力アップエクササイズ、乳房の鬱積が強い方への肩関節周囲のほぐし方（肩こりにも有効）、尿漏れやO脚改善のケアなど妊・産・褥婦だけでなく幅広い層の方に使える内容でした。お母さんの身体の不調は心理面や育児にも影響します。機会があれば教えて頂いたケアを実践し、産後のお母さんの身体を健やかに整えていきたいと思えました。



「助産師としての防災・災害に対する意識」に参加して

報告) 平田 郁恵 (こどもとおとなの医療センター)

防災週間でもある9月3日、いのちの応援舎で日本助産師会災害対策委員である青木恭子さん、酒井由美子さんのお二人にお越しいただき「助産師としての防災・災害に対する意識」を演題とした研修会が開催されました。お二人とも阪神大震災、新潟中越大地震の被災経験をお持ちの方であり、実際の震災体験を被災者でしか語れない貴重なお話を話してくださいました。講演の後のグループワークでは活発な意見交換が行われ、個人だけではなく施設として、地域として災害対策について改めて考える良い機会になりました。

発生が予測されている南海トラフは多大な被害が想定されており、高知県、徳島県など太平洋側は特に大きな被害が予想されます。香川県も被害はあると思われますが、他県からの被災者の受け入れをする立場としても検討しておく必要があるということ意識させていただきました。「備えあれば憂いなしとはその通りです。自分のためではなく人のためにもなるんです。」と仰られた酒井さんは常に携帯トイレや下着の替えなどを持ち歩いており、その防災意識の高さには頭が下がる思いでした。女性だから、助産師だからできる防災対策を考え取り組んでいくことが重要であると思いました。



『マタニティほっと相談』でのハプニング

報告) コーディネーター 真鍋由紀子

8月11日助産師会電話相談担当者より『小野寺リサ 17歳 妊娠27週、出血、腹痛』という連絡が入りました。これは大変、悪くすれば母子の命に関わると判断し、すぐに手を打たなければ、と焦りました。住所は電話内容から綾川町の〇〇集会場の近くで、西部子どもセンターに電話相談履歴があるということに頼りに詳細を探りました。しかし、西部子どもセンター・綾川町に連絡を取り居住確認しましたが該当者なしとの事。8月13日助産師会電話相談に「救急車で滝宮病院に運ばれ、そこから高松市内の病院に搬送され入院しました」と連絡があり、「住所が施設になっているため母子手帳がもらえません」とおまけがついていました。その後高松市保健センターに情報提供し、高松市内の病院に該当者はいないとの事。これはおかしい…。と思いつつ、マタニティほっと相談をキーステーションにして各機関と情報共有しながら時間が過ぎていきました。8月17日西部子どもセンター所長より「17歳の事案は虚偽であった」と連絡がありました。岩手県でも同じ事案が発生し大騒動しているとの事でした。情報源の電話番号が一致し判明しました。一瞬ほっとしたり、とんでもないと思ったり複雑な気持ちでした。

この事案から多くの機関と連携をとることができ、大掛かりな演習をさせてもらったのかと思います。連携機関の皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。今後とも宜しくお願い致します。

～お知らせ～

☆鈴木綾子さんが「厚生労働大臣賞」、田所由紀子さんが「日本助産師会会長賞」受賞しました。

☆「いのちの応援舎」が厚生労働省モデル事業「産前・産後母子支援事業」を実施することになりました。

事業内容は、妊娠・出産に悩む妊婦等の相談窓口として『マタニティほっと相談』を設置し、平日9時～17時（緊急時は時間外でも対応可）に電話にて相談を受け付けています。必要に応じて、産科医療機関や市町等関係機関と連携し、子育て支援や自立支援、家事支援、就労支援につなげます。

☆教育委員より

H30. 1. 7 (日) 新生児蘇生法 スキルアップコースを行います。スキルアップコースはNCPR修了認定者を対象とします。継続学習支援のためのコースで3時間の時間でA・Bコース認定者で有効期限内の終了認定者でなければ受講資格はありません。申し込み時に終了認定番号と有効期限の提出が必要です。講義・実習・アンケートがあり、アンケートの提出が受講証明になり、試験はありません。定員18名で申し込みが多数になることが予想されます。早めに申し込みをお願いします。

☆その他のお知らせ

・10月29日(日) 9:45～15:00 プライマリケア 医等・発達障害対応力向上研修会
場所：ホテルパールガーデン (申し込み要 問い合わせ：香川県医師会事務局)

☆今後の各会の予定

- ・10月3日(火)：ほっと相談室リーダー会
- ・10月5日(木) 10:00～：事例検討会(高松・東讃)
- ・10月15日(日) 13:30～：第3回理事会
- ・10月28日(土) 10:00～：「いいお産の日 IN 高松」実行委員会
- ・10月14日(土) 9:30～：「いいお産の日 IN 丸亀」実行委員会



10・11・12月の研修会・行事

日時	ポイント	イベント・研修会	講師等	場所
9/30・10/1	一般①	中四国地区助産師研修会		岡山県 ピュアリティまきび
10/15(日) 9:30～ 12:30	一般①	母親のメンタルヘルス	香川県子ども女性相談センター 臨床心理士	いのちの応援舎
11/3(祝)		いいお産の日 IN 高松		高松テルサ
11/5(日)		いいお産の日 IN 丸亀		岡田コミュニティセンター
12/9(土)		香川母性衛生学会学術集会		香川大学医学部
12/10(日)	一般①	男性の性 産後クライシス(案)	松木泌尿器科医院 松木孝和院長	いのちの応援舎

☆研修会の申し込み・お問い合わせは、すこやか助産師センター事務所

(Tel.087-844-4131 fax087-844-4130) E-mail:sanukisanba@mist.ocn.ne.jp

お申し込み時には、氏名・勤務先・日本助産師会会員の有無・電話番号をお知らせください。

お申し込みは研修会・研究会の2日前までにご連絡ください。